

# 館燈

No.176

2010. 7. 15

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

## 目 次

機関リポジトリへの登録が 10,000件を突破しました……………	1
2010年春季特別展 「尾張の古都 清洲と濃尾地域」を終えて……………	2
EU展+ EUクイズ2010開催報告……………	4
平成21年度附属図書館統計……………	5
「レポート書き方講座」を 担当してみて感じること……………	7
附属図書館2010年秋季特別展のお知らせ……………	7
ホームミングデイ附属図書館行事紹介……………	8
利用者から見た図書館……………	8
本学教員著作物寄贈リスト……………	10

## 機関リポジトリへの登録が10,000件を突破しました (記念インタビュー)

2010年4月、附属図書館の運営する名古屋大学学術機関リポジトリ (NAGOYA Repository) の収録コンテンツ数が10,000件を超えました。2006年2月に一般公開をはじめから約4年、持続的に雑誌掲載論文や学位論文を増やしながらの今回の達成となりました。

10,000件目の登録は、国際開発研究科にご在籍の笠浩一朗先生の博士学位論文『同時通訳データの分析に基づく漸進的な英日翻訳に関する研究』です (<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/handle/2237/13109>)。NAGOYA Repositoryの運営スタッフは、今回、笠先生に記念インタビューを行い、ご自身の研究テーマや機関リポジトリへの思いなどをうかがいました。

……………

——今回は、NAGOYA Repositoryのために論文を提供いただきありがとうございました。この博士学位論文に書かれたものは、どういった研究だったのですか。

笠先生：英語から日本語への同時通訳をコンピュータで行うことに興味があり、今回のような研究を行いました。英語の文章をすべて与えられてからそれを日本語に直すようなものならばすでにいろいろな成果が世の中にありますが、それとは性質が違います。

——インターネット上でよく見かける、文章翻訳サービスのようなものことですか。

笠先生：そうですね。よく見かける文章翻訳サービスは、すべての文章が与えられないと翻訳を始めることができません。テレビの実況や



会議などの通訳でよく見るように、文章がすべて終わっていないのに翻訳をはじめるといったことは、別の種類の技術が必要になるのです。特に、英語と日本語では同じ意味の文章でも語順が違いますから、それに合わせた方法が必要です。特にコンピュータを使ってそれを行うのが、今回の研究テーマです。

——つまり、同時通訳を自動化するための研究と理解すればよいのですね。同時通訳を職業にしている方々からは、仕事を奪うものだと恨まれませんか？

笠先生：以前にも聞かれたことがあります、それはないでしょう(笑)。まだ簡単な文を扱えるにすぎません。同時通訳というのは、とても難しいものです。人間の言語活動のなかでも最も高度なものといわれているほどです。プロの仕事を奪ってしまうほどの品質でコンピュータが同時通訳できるようになる日は、当分来ないと考えて差し支えありません。とはいえ、この研究で示したような簡単な文の同時通訳であれば、品質がそれほど高くなくても許される場で、気軽に活用できるようになると考えています。

——先生の論文が機関リポジトリに登録されて、すでにこの程度のアクセスがあります。(アクセス統計を見せる)

笠先生：登録してから一週間程度なのに、意外とダウンロードされているという印象ですね。他に以前登録したのも、なかなかダウンロードされていますね。Web クローラの類は含まれるのですか。(※ Web クローラとは、Web 検索サービスなどが定期的にコンテンツを自動収集していくものです)

——分かる限りは、Web クローラからのアクセスは統計から除いています。NAGOYA Repository へのアクセスの大半は、Yahoo や Google などの検索サービスからのものです。機関リポジトリを作るためのソフトウェアは、検索サービスに検知されやすくするための特徴をいろいろと備えていますので、いろいろな経路から見つけられやすくなるのです。

笠先生：どういった経路でアクセスされたのか、興味がありますね。特に、どういった検索語で

見つけたのかが分かるととても参考になると思うのですが。

——現在は、希望される先生方には、論文ごとの累積ダウンロード数をお知らせするサービスをしています。検索語をお知らせすることについては、今後検討してみます。機関リポジトリに登録された論文は、世界中の誰でも、ネットにつながる限りこれを読むことができます。どんな人に読んでもらえるとよいとお考えですか。

笠先生：この論文は、コンピュータで同時通訳をするという目標全体の一部分をなす研究です。たとえば音声認識も重要な要素となるべきですが、そのこと自体はこの研究に含まれていません。ですから、隣接する研究分野の方々がこの論文を発見してくれて、いつかコラボレーションが進むようになるとよいですね。また、若い学生が機械翻訳について興味を持つきっかけになってくれればうれしいです。

——どうもありがとうございました。

.....

笠先生は終始にこやかに、かつ丁寧に質問に答えてくださいました。また、先生には、附属図書館からの記念品として図書館グッズを差し上げました。ありがとうございました。

NAGOYA Repository に登録された論文等のアイテム数は2010年6月16日現在で10,665件、2010年5月末までの累積ダウンロード数は2,200,206回です。今後も登録の推進やシステム上の改善に努めていきます。

インタビューア：

山本哲也 (学術情報システム掛)

森彩乃 (図書情報掛)



## 2010年春季特別展

### 「尾張の古都 清洲と濃尾地域」を終えて

石川 寛

5月17日から6月11日まで開催された2010年春季特別展「尾張の古都 清洲と濃尾地域」

は、「名古屋開府400年記念」と銘打ったこともあり人々の関心を呼び、4週間の会期中に

644 人の方々に来場していただき、また5月29日の講演会でも157名もの聴衆を迎えることができた。

附属図書館研究開発室は、これまで木曾三川流域、さらには濃尾地域全般の歴史情報資源の収集と調査に取り組み、その一環として清洲の竹田家文書および河村家文書を所蔵し整理作業を進めてきた。今回はこのうち竹田家文書の中核に、清洲の町や個人宅に伝わる貴重な資料もお借りして、江戸時代の清洲の歴史を総合的に振り返る特別展を企画した。御協力いただいた関係各位、関係機関に改めてお礼申し上げたい。

.....

一般への公開は今回が初となる竹田家文書は、清洲神明町の武田新蔵家に伝来した資料群である（明治2年に竹田と改姓したため「竹田家文書」と称している）。寛政期から明治30年代にいたる約一世紀の、初代新蔵辰形、二代辰吉、三代辰業、四代辰正の活動が集積された竹田家文書は、点数は約1500点と少ないながら、清洲の歴史に関する新たな知見をもたらすことが期待されている。

展示資料を踏まえ竹田家文書の内容を紹介すると、第一に武田（竹田）家は、清洲宿村締りの立合役、尾張藩の御勝手御用達、幕末の総年寄を勤め、また治水事業にも関与し、さらに維新後は春日井郡を管轄する第三大区長を勤めるなど、同地域の政治的指導者へと成長したために、近世後期以降の清洲宿村政に関する資料が多数存在する。展示第I章で紹介した五条川堤防の維持管理体制を示す資料や第IV章の御勝手御用達任命に関する同時代資料のほか、立合役設置の理由や宿村の職務・身分格式などに関する資料もみつかった。

第二に幕末の非常守に関する資料がある。非常守とは尾張藩が治安維持のために組織した農兵隊をいい、清洲代官所管下では武田辰正ら4人を下裁許人（指揮官）にして1組20名前後からなる非常守が2組編成されたことがわかった（展示第V章）。この組織は一部が後の草莽隊の母体にもなったためその重要性が指摘されてきたが、これまで資料不足により詳しいことは把握できずにいた。おそらく非常守に関するまとまった資料が発見されたのは初めてのこと

であり、その実体解明に大きく寄与するものとなるだろう。

また、竹田家文書には古文書だけでなく俳書・歌書の板木も残っている（第二展示室で一部紹介）。武田家は本家の長兵衛家とともに地方文化の開発に先進的な役割を果たした文人を多く輩出したことで知られている。長兵衛家の騏六（辰形の兄）を清洲俳壇の先駆者として、騏上（騏六次男、辰形養子）、加笠（辰形）、柯笛（農業）らが活躍し、また辰正は明治になり清流吟社を組織して清洲歌壇を指導した。竹田家文書に残る板木は19世紀の清洲俳壇・歌壇の消息を知るものとして貴重である。

最後に清洲古城跡保存会の発足当初の構想を語る資料がある。清洲古城跡保存会は竹田辰正が中心となって明治30年頃に結成された。彼らは城跡の整備・拡張を計画し、信長を祀る神壇造営の構想をたて、また信長への奉納和歌を募集するなど、清洲城跡の保存と信長顕彰に取り組んだ。その資料は第VI章で展示し、また講演会講師の羽賀祥二氏も資料の意義を説明された。そもそも清洲城を信長の城として顕彰し始めたのは辰正の父辰業である。辰業は弘化年間に「右大臣織田信長公古城跡」碑を本丸跡に建て、辰正は幕末に信長公祭を発起し、その子銀太郎が清洲公園に信長の銅像を建立する。現在、清洲城は信長の城として定着しているが、そうしたイメージは武田（竹田）新蔵家の三代にわたる活動によって形成されたものであった。

.....

今回の展示会には、市長をはじめ地元清須市からの多くの来館があった。竹田家文書はその存在自体が知られていなかったもので、地元の方々に少なからず驚きをもって受け止められたようだ。また来館者のなかには、清洲越400年とはいえ移転先の名古屋ばかりに関心が集まるなかで清洲をテーマにした展示会が開催されたことに喜びながらも、一方で清須市外に竹田家文書があることに複雑な思いをみせた方がいた。大学が地域の資料を保存し活用することの意味を改めて考えさせられた。地元への還元方法も含めて今後の活動に努めていきたい。

（いしかわ・ひろし）

附属図書館研究開発室研究員）

# 「EU 展+ EU クイズ 2010 『EU と EU 諸国 —これ知ってる？クイズでわかる EU』」開催報告

名古屋大学 EU 情報センター(経済学図書室内)では、今年も例年通りの5月(5月10日(月) - 14日(金)の1週間)に、経済学図書室ラウンジにてEU 展+EU クイズを開催いたしました。このイベントは、EU への理解を広め深めるために毎年5月9日の「ヨーロッパ・デー」を中心に日本全国で開催される「日・EU フレンドシップウィーク」の一環として、本学では2006年より参加しているものです。

今年は、これまで以上に「楽しみながら EU についての理解を深められる展示」を目指しました。EU についての予備知識があまりない人でも、EU と EU 諸国について親しみを覚えられようような各国の基本情報や、クイズ形式の豆知識、EU 組織の概要図、EU 拡大の歴史についてとりまとめた掲示物、EU 拡大の歴史に関わる条約などの文書資料、加盟各国の国旗を立てた大型地図などを展示しました。

山の方に来て、見て、楽しみ、EU についての知識を深め、かつ身近に感じて頂くことができました。



展示：EU 加盟 27 カ国の国旗と地図



会場全体の様子



展示：EU 拡大の歴史。開くと答えが…

その場で答えが分かるクイズでは「名古屋大学とほぼ同じ緯度にある EU 加盟国の首都は？」など、分かりそうで分からないクイズを、景品付きの EU プレゼントクイズでは、展示内容のどこかに答えのある3問を解いて頂きました(どちらも4択)。景品として参加賞(EU オリジナル・ユーロステッカー)と、全問正解者には4種類の EU または名古屋大学 EU 情報センターの特製グッズのうち1点を進呈しました。今年のクイズ参加者数は、過去最高を記録し、非常に沢

この名古屋大学 EU 情報センターは1973年、日本で2番目の「EU 情報センター」として経済学図書室内に設立されて以来、EU から寄贈される公式刊行物の収集・整理をし、多くの方々への利用に供しています。5月のEU 展だけでなく、経済学図書室ラウンジでは常時、「EU News」の掲示や、ご自由にお取り頂ける配布資料の設置などを行なっています。経済学部のお近くを通られましたら、法経共用館1階、経済学図書室内のEU 情報センターに、是非お立ち寄り下さい。

(名古屋大学 EU 情報センター  
(経済学図書室内))

平成21年度附属図書館蔵書冊数及び年間図書増減数・雑誌受入数

区 分	蔵書冊数 (H22.3.31現在)				平成21年度図書増減数				平成21年度雑誌受入種類数		
	和 書	洋 書	合 計	和 書 受入(増) 除却等(減)	洋 書		合 計 (増)-(減)	和雑誌	洋雑誌	合 計	
					受入(増)	除却等(減)					
中央図書館	640,969	519,593	1,160,562	18,381	527	64,596	836	2,288	392	2,680	
医学部分館	68,380	110,402	178,782	2,231	9	1,050	2	512	490	1,002	
医学部分館保健学図書室	34,829	6,777	41,606	2,236	259	116	1	316	49	365	
文学図書室※1	175,266	110,183	285,449	13,358	1,337	3,735	5	1,280	381	1,661	
教育発達科学図書室	70,611	44,203	114,814	9,418	1,136	1,185	11	384	135	519	
教育学部附属学校図書室	25,899	553	26,452	2,112	1	96	0	55	1	56	
法学図書室	131,137	93,244	224,381	2,675	788	2,243	102	551	64	615	
経済学図書室※2	136,040	123,618	259,658	3,319	2,501	1,565	3,720	665	383	1,048	
情報・言語合同図書室※3	100,137	78,172	178,309	2,306	20,679	1,725	1,631	310	169	479	
理学図書室※4	31,726	158,817	190,543	1,855	402	3,114	1,612	247	706	953	
工学図書室※5	78,761	114,875	193,636	4,005	5,675	2,716	6,856	738	244	982	
生命農学図書室※6	51,227	49,248	100,475	1,211	8	489	107	500	103	603	
国際開発図書室	28,218	31,260	59,478	1,015	48	1,227	24	90	143	233	
環境医学研究所図書室	824	3,531	4,355	9	132	0	2,455	3	0	3	
太陽地球環境研究所図書室	2,688	10,424	13,112	41	0	206	0	247	8	18	
地球水循環研究センター図書室	4,128	12,346	16,474	153	0	116	4	70	101	171	
情報連携基盤センター図書室	2,433	4,100	6,533	716	2	1,038	2	35	2	37	
アイントープ総合センター図書室	202	119	321	6	0	11	0	6	1	7	
留学生センター図書室	2,973	1,546	4,519	114	0	78	0	192	3	3	
総合保健体育科学センター図書室	7,514	5,030	12,544	122	205	171	37	19	12	31	
合 計	1,593,962	1,478,041	3,072,003	65,283	33,709	85,477	17,405	8,082	3,384	11,466	

※1 文学図書室の対象には、環境学研究所の一部を含む。  
 ※2 経済学図書室の対象には、附属国際経済政策研究センターを含む。  
 ※3 情報・言語合同図書室の対象には、情報文化学部及び国際言語文化研究センターのほか、環境学研究所の一部を含む。  
 ※4 理学図書室の対象には、遺伝子実験施設及び年代測定資料研究センターのほか、環境学研究所の一部を含む。  
 ※5 工学図書室の対象には、エコトピア科学研究所のほか、環境学研究所及び情報科学研究所の一部を含む。  
 ※6 生命農学図書室の対象には、生物機能開発利用研究センターを含む。

図書館利用状況 (平成21年度)

項 目	平成20年度	平成21年度	備 考
I 奉仕対象者	24,172人	24,616人	学部学生：10,097人 院生：6,556人 教員：3,822人 職員：4,141人
II 閲覧サービス			
1. 年間開館日数	356日	356日	うち土・日・祝日開館：118日
2. 年間入館者数	710,463人	763,326人	うち学外者：42,611人
3. 館外貸出冊数	135,930冊	137,372冊	一日平均：386冊
III 参考調査サービス			
1. 調査依頼者数	2,882人	2,421人	学内者：1,753人 学外者：668人(来館者のみ) 延取扱件数：3,299件 (E-mail, Faxを含)
2. 他機関への調査依頼	4件	6件	官報：8件 LexisNexis at Iexis.com：4件
3. 情報検索利用件数(専用端末)	0件	12件	PDF2：163件 明治大正昭和の読売新聞：21件 その他：29件
4. CD-ROM/DVDのDB利用件数	213件	213件	MAGAZINEPLUS：8,388件 Web of Science：79,749件 JCR：14,131件 MEDLINE：12,076件 BA：9,313件 ERIC：6,716件 PsycINFO：17,985件 Cochrane：26,187件 CINAHL：6,720件 (※利用統計が採取できる主なもの掲げた。)
5. オンライン検索セッション数	166,051件	181,265件	FirstSearch ECO：757件 EBSCOhost：17,444件 ScienceDirect：702,346件 SpringerLINK：83,957件 WileyInterScience：173,631件 ProQuest：4,388件 Emerald：1,341件 PAO：261件 ACS：243,811件 Nature：130,400件 Science：41,032件 OUP：42,318件 BioOne：2,077件 Annual Review：7,473件 Cambridge：7,900件 OVID：20,785件
6. 電子ジャーナル利用件数(全文表示)	1,474,041件	1,506,395件	(※利用統計が採取できる主なもの掲げた。)
7. OPACアクセス件数	1,756,207件	1,655,805件	学内件数：1,288,213件 学外件数：367,592件
8. 図書館HPアクセス件数	7,502,895件	7,104,158件	学内件数：3,667,772件 学外件数：3,436,386件
IV 相互利用サービス (他機関)			
1. 図書貸出 (貸借受付件数)	1,439件	1,333件	国内件数：1,324件 海外件数：9件
2. 図書借受 (貸借依頼件数)	560件	678件	国内件数：628件 海外件数：50件
3. 文献複写受付件数	6,914件	5,071件	国内件数：5,014件 海外件数：57件
4. 文献複写依頼件数	678件	859件	国内件数：642件 海外件数：217件
5. 他機関の利用申請	164件	168件	紹介状発行：40件 利用照会：128件
V 館内資料の文献複写利用			
1. 文献複写枚数(館内備付複写機利用)	827,577枚	684,035枚	校費用 (4台)：86,606枚 私費用 (6台)：597,429枚
2. コピーゼリバリー・サービス	156件	111件	
VI 館内施設利用			
1. 研究個室	3,780人	5,331人	延利用件数：11,733件
2. サテライトラボ	29件	7件	延利用人数：147人 (4FサテライトラボPC利用者数：35,963人)
3. セミナールーム (A,B)		56件	延利用人数：726人 (2FサテライトラボPC利用者数：34,246人)
4. グループ研究室	792件	689件	延利用人数：3,293人
5. 共同研究室	356件	557件	延利用人数：1,172人
6. 視聴覚ブース	128件	176件	

## 「レポート書き方講座」を担当してみて感じること

近 田 政 博

高等教育研究センターでは、附属図書館と共催で、学部1・2年生を対象とする「レポート書き方講座」を毎年開催しています。今回（6月30日）も50名以上の学生から参加申し込みがあったと聞いています。私はたまたま大学生への学習支援を研究してきたという経緯から、最近こうしたセミナーの講師を担当することがあり、いくつか感じるがあります。

第一に、われわれ大学教員は、大学で求められるレポートや論文とはいかなるものかについて、学生に対してこれまでちゃんと伝えてこなかったのではないかという反省です。そもそも今の大学教員からして、論文の書き方については学生時代に見よう見まねで習得した感があります。今日の大学生は、インターネット上でツイッターやブログが普及したことにより、短いフレーズを文字で表現することには慣れてるようです。しかし、特定のテーマを精選し、まとまった長さの文章を論理的に構成し、不特定多数の相手に読んでもらえるように表現するには別のスキルが必要です。まずこのことを学生に知ってもらう必要があります。

第二に、名古屋大学に入る基礎学力を備えた学生ならば、一定のトレーニングを施せば、書くスキルは確実に向上するという事です。アカデミックな文章を書くということは、日記や

感想文とは異なるので、たとえば次のような基本セオリーを伝える必要があります。一つの文をできるだけ簡潔にし、「一文一義」で書くこと。問いを展開し、自分なりの仮説を立ててみること。先行研究の特徴をまとめ、その問題点を明らかにすること、引用する文献の出典を明記すること、など。いずれも難しいことではありません。私の経験から言えば、名大生なら数回の講習を受ければ確実にマスターできるでしょう。

第三に、アカデミック・ライティングに関する専門家をちゃんと採用し、学生に対して組織的なサポート体制を整える必要があるだろうということです。本学では、英語のみで学位を取得できる複数コースの創設を急ぐ必要性から、教養教育院のライティング支援室では外国語によるライティング支援に重点が置かれ、日本語でレポートや論文を書くことへの支援が遅れています。しかし、現に名古屋大学はまぎれもなく日本の大学ですし、多くの学生は日本語でレポートや論文を書いています。低年次に上記のようなトレーニングをしておけば、卒論や修論指導の際に、指導教員の負担は格段に軽減できるでしょう。これは学生と教員の双方に利益のあることだと思います。

（ちかだ・まさひろ

高等教育研究センター准教授）



## 附属図書館 2010 年秋季特別展のお知らせ

中央図書館新収の「水田文庫」は、水田洋本学名誉教授が60年にわたって構築してきた社会思想史蔵書のうち、16世紀末から19世紀後半に至る基幹部分を成す約7千冊を受入れたもので、トマス・ホップズ、アダム・スミスを中心に、その周辺の著作を集めた世界的な西欧近

代思想史コレクションとして名高いものです。今回の特別展は、この水田文庫の特徴を、厳選した蔵書によって紹介するものです。また、特別展にあわせて講演会も開催します。

多数のご来場をお待ちしています。

テーマ：「水田文庫新収蔵記念展 アダム・スミスと啓蒙思想の系譜」

期 間：2010年10月14日(木)～11月11日(木) 9:30～17:00 (日曜・祝日は閉室)

場 所：中央図書館4階展示室

講演会：2010年10月30日(土) 13:30～16:30

場 所：中央図書館5階多目的室

講 師：水田 洋（名古屋大学名誉教授）

田中秀夫（京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長、教授）

篠原 久（関西学院大学経済学部教授）



## 2010年度名古屋大学ホームカミングデイ附属図書館の行事

附属図書館では10月16日（土）の第6回（平成22年度）ホームカミングデイに、以下の1～4の行事を中央図書館で、5を豊田講堂南側ピロティで開催いたします。皆様のご来場をお待ちしています。

### 1. 秋季特別展

「水田文庫新収蔵記念展 アダム・スミスと啓蒙思想の系譜」

9:30～17:00 4階展示室等で開催。附属図書館が新たに受け入れた世界的な西欧近代思想史コレクション。トマス・ホップズ、アダム・スミスを中心に、その周辺の著作を集めた貴重資料の一端を、ぜひこの機会にご覧ください。

### 2. 図書館見学ツアー

10:00～15:00まで、30分間隔でスタートします。2階受付集合、職員が約30分程度かけて館内をご案内します。広い閲覧スペース、大量の蔵書、新しい学習スペースであるラーニング・

コモンズなどをご覧くださいませ。

### 3. オープンライブラリー

8:45～17:00 館内の自由見学ができます。ご都合のよい時間にどうぞ。

### 4. スライドショーによる図書館紹介

8:45～17:00 玄関を入れて前方の参考カウンター付近で上映します。10分ほどで図書館の概要が分かります。

### 5. 本のリユース市

10:00～17:00 豊田講堂南側ピロティで、附属図書館で不用となった本を有償あるいは無償でお譲りします。語学辞典、哲学・文学・化学・数学などの学術書、カラー写真満載の美術雑誌、趣味・娯楽雑誌などなど……。貴方のお宝が見つかるかもしれません。数に限りがありますので、お早めにお越しください。なお、収益金は、学生によって選書される学生のための図書購入費に充てる予定です。



## 《利用者から見た図書館》

### 貸し出し手続きの思い出

古 田 麻 衣

名古屋大学の中央図書館に初めて足を踏み入れたのは、大学見学に訪れた高校3年生の春でした。背の高い書架がずらっと並んでいて、背表紙のすりきれた本を開くと古い本の匂いがする図書館は、歩いているだけでなんとなくどきどきする空間で、わたしも入学できたらここで本を探したり勉強したりするのかなと期待に胸をふくらませたことを覚えています。

あのときから、名古屋大学の図書館を利用するのも早6年目に。はじめは、調べたい資料を

探すのに四苦八苦し、たった一冊の本を探すのにもいつもうろうろと手間取っていましたが、繰り返し利用するうちに次第に慣れてきました。また、約1年前から教育学部の図書室でのアルバイトをはじめたことで、大学の図書館はとても身近な場所となっています。

先日、アルバイト中にカウンターで貸出・返却の手続きを行っているときに、ふと小学校の図書室で貸し出しの際に利用していた代本板を思い出しました。借りたい本を取り出したス



ペースに、背に名前が書いてある木製の代本板を入れておくことで、後から同じ場所に本を返すことができるという仕組みだったと思います。この仕組みは、その点では便利さがある一方で、その場所にある本を誰が借りたのかがわかってしまう仕組みでもありました。小学生だった当時、いつもわたしは図書室の本棚を眺めていて友達の代本板をみつけると、その友達が借りていた本を後からせっせと借りるということを繰り返していました。自分では立ち寄らない書架、手にとらない本でも、友達が借りているのをみるとその本がすごくおもしろそうに思っていたのです。いまになって思い返せばちょっと恥ずかしい気持ちもしますが、そのおかげで、もしかしたら手にとらなかったかもし

れない本に出会えたように思います。

手続き・管理の煩雑さや利用者のプライバシーの保護等を考えれば、現在、図書館で誰が何を利用したかがわかってしまう仕組みは当然行うことはできないと思います。でも、当時、名前の知っている誰かが読んだ本にわたしも出会えたこと、それによって読書の幅が広がっていくことがすごくわくわくすることだったことを思い出し、もし今、利用者のおすすめの本や貸し出し頻度の多い本がわかる仕組みがあったら、きっとわたしは大いに利用するのだろうなあということを思いました。

(ふるた・まい)

教育発達科学研究科博士前期課程2年)

・\*\*\*・\*\*\*・\*\*\*・\*\*\*・\*\*\*・

## 《利用者から見た図書館》

### 使いやすくなる大学図書館

丸 山 落

大学へ入るまで、私と「大学図書館」の縁は全くなかった。それは、田舎で育ったため近くに大学と呼べるような場所がなかったためである。さらに、いわゆる「受験生」であった私にとって、高校生が「大学図書館」を利用するという考えそのものがなかった。私にとって「大学図書館」という場所は実際には触れたことがなく、少々敷居の高い場所であったのである。そのため、当時、私は「大学図書館」なるものに対する畏敬の念を持っていたのである。すなわち、「大学図書館」は研究機関である大学の図書館であるから、その場所においては自立的かつ自律的な人々が利用するのだろうと。

大学入学後すぐの私にはそのような人物である自信は到底なかったため、図書館へ初めて足を踏み入れるときは大変どきどきしたのを今でも覚えている。それは未開の地へ足を踏み入れるような気持ちであったように思われる（実際に、未開の地に足を踏み入れたのだが……）。

当初、そのようなものとして「大学図書館」を捉えていた私にとって、図書館を借りるということ意外にそこを利用しようなどとは到底考えが及ばなかったのである。しかし、大学図書館

にはその当時でさえ様々な利用の仕方があった。例えば、かなり基本的なことであるが、他大学の図書館から図書館を借りるということも図書館で利用できる制度であろう。また、学術雑誌にある論文を調べる際に論文名しか知らない場合でも、その論文がいかなる雑誌のどの巻に掲載されているかということは知らなくても現在ではインターネットで検索可能であるため、目的物へ到達する時間は相当短縮されている（このように情報化されていない時代を今では想像することさえ難しいが、ほんの一昔前は論文名がわかっただけでは目的物にたどり着けない可能性も高かったであろう）。とはいえ、知識がなければ「大学図書館」の利用といった場合に考えつくのは図書館を借りるということぐらいだろう。

しかし、名古屋大学附属図書館中央図書館では、年度の初めに「基礎セミナー」として「大学図書館」の利用方法を説明する時間が必ず設定され、全員受講が予定されている（私は大学院から名古屋大学に通い始めたので学部から所属している友人に聞いたのだが、以前は全員受講というわけではなかったようだ）。このセミ

ナーでは、図書の貸出・返却といった基本的なことから、データベースの利用方法といった、図書館で利用可能な機能に関して講習会を通して説明を受ける機会を設けている。大学に入学したての利用者にとって、大学図書館を身近にする機会を設けている点は大変ありがたい。

さらに、前年度からは、論文の検索方法などといった、大学図書館の利用に関するアドバイスを行うカウンターが設置された。そこにおいては、係りが常駐し、利用者からの様々な質問に答えてくれるようになってきているようである。大変残念なのは、既に、図書館の利用に関してそれほど問題を感じていない私にとっては利用する機会はないだろうと思うのであるが、大学入学当初にこのようなカウンターが設置されていたのであれば、大変心強かったのではなかったかと思ってしまうのである。

近年、大学図書館の努力によりますます利用しやすくなる図書館であるが、若干役割を変えてきているのではないかと感じられる面もある。昨年度から、中央図書館ではラーニング・コモンズを導入したり、パソコンコーナーを充実したりと、様々な学生の利用を可能にするよ

うな設備が整えられているようである。しかし、ラーニング・コモンズは従来の私語を禁止するといった図書館像とは異なり、そこでは利用者同士で会話をすることが許されている。そこには研究が一人でなされるといったこととは異なるものがある。会話の中で発展する研究が想定されているということであろうか。

大学図書館も現代の社会状況と無縁でない以上、時代の移り変わりに合わせてそのあり方を検討する必要性はあると思われる。そのために中央図書館が取り組んでいることは好意的に評価すべきであると考えてもいる。利用者にとって使いやすい大学図書館になるということは、総じて学問的な発展につながるであろうと考えるからである。しかし、大学図書館がいかに利用者にとって利用しやすくなろうと、私は大学入学当初に感じた畏敬の念を持ち続けていきたいと思っている。大学図書館を利用する側はやはり自立的で自律的な者が利用することが望ましいと考え、そのような利用者でありたいと私は感じているからである。

(まるやま・ふき

法学研究科博士後期課程 1年)



## 本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成 22 年 3～5 月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
文 学 研 究 科	春日 豊	帝国日本と財閥商社：恐慌・戦争下の三井物産 / 春日豊著。 -名古屋大学出版会, 2010. 2	11704930	中央図 1 F 335.48 /Ka
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	図説違式註違条例：付「民権党宣言」(仮題) / 鬼頭勝之編。 -ブックショップマイタウン, 2009. 3	11704291	中央図 1 F 322.15 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	近世葬祭影印史料：『長思録』より / 福井軌著；鬼頭勝之編。 -ブックショップマイタウン, 2009. 9	11704295	中央図 1 F 385.6 /H
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	刑罪大秘録 / 鬼頭勝之編。-ブックショップマイタウン, 2007. 12	11704308	中央図 1 F 326.4 /Ki

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	尾張藩幕末武家屋敷図：付・下級士族名簿 / 鬼頭勝之編. - ブックショップマイタウン, 2010. 1	11704311	中央図 4 F 215.5 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	尾張藩在郷名家録 / 鬼頭勝之 [著]. - ブックショップマイタウン, 2007. 12	11704310	中央図 4 F 215.5 /O
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	宗春の肖像：「享元絵巻」と「夢の跡」 / 鬼頭勝之編. - ブックショップ「マイタウン」, 1995. 11	11704292	中央図 4 F 215.5 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	日本陸軍秘密研究書：原題『鹵獲書譯文』 / クロバトキン著：鬼頭勝之編. - ブックショップ「マイタウン」, 2004. 5	11704304	中央図 1 F 396.21 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	普化宗弾圧の序曲：芥見村虚無僧闘争一件 / 鬼頭勝之著. - ブックショップマイタウン, 2006. 7	11704309	中央図 4 F 188.85 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	琵琶物語：異説・藤原師長伝説 / 松鶴庵芦風 [著], 青陽堂景山 [画]; 鬼頭勝之編. - ブックショップマイタウン, 2007. 5	11704301	中央図 4 F 913.5 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	『忠義画像』を読む：忠臣蔵外伝 / 鬼頭勝之編. - ブックショップ「マイタウン」, 2002. 12	11704296	中央図 4 F 210.52 /Ki
非 常 勤 講 師	鬼頭 勝之	宗春と芸能：「付」忍びの者と山伏 / 鬼頭勝之著. - ブックショップマイタウン, 2006. 10	11704290	中央図 4 F 772.1 /Ki
文 学 研 究 科	中村 靖子	環境からマクロコスモスへ：人文学・自然科学編 / 中村靖子編著. - 松籟社, 2010. 3	11704293	中央図 4 F 112 /N
文 学 研 究 科	中村 靖子	マクロコスモスから環境へ：脳科学・社会科学編 / 中村靖子編著. - 松籟社, 2010. 3	11704294	中央図 4 F 112 /N
法 学 研 究 科	中舎 寛樹	総則 / 副田隆重, 中舎寛樹, 山崎敏彦著. - 第 3 版補訂. - 成文堂, 2010. 3	11704908	中央学 3 F 324 /H
国 際 言 語 文 化 研 究 科	松下千雅子	クイア物語論：近代アメリカ小説のクローゼット分析 / 松下千雅子著. - 人文書院, 2009. 10	11704909	中央図 4 F 930.29/Ma
国 際 言 語 文 化 研 究 科	松下千雅子	戯れのテクノロジー = The technology of pleasure / 松下千雅子, エドワード・ヘイグ, 杉村泰編. - 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, 2010. 3	11704911	中央図 4 F 801.03 /Ma
生 命 農 学 研 究 科	山田 容三	森林管理の理念と技術：森林と人間の共生の道へ / 山田容三著. - 京都：昭和堂, 2009. 10	11693877	中央学 3 F 651.1 /Y

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
文学研究科	日比 嘉高	認知物語論キーワード / 西田谷洋 [ほか] 著. - 和泉書院, 2010. 4	11705625	中央学 3 F 141.51 /N
環境学研究科	川田 稔	社会環境学の世界 / 竹内恒夫 [ほか] 編. - 日本評論社, 2010. 4	11705626	中央学 3 F 519 /Ta
教育発達科学研究科	松田 武雄 吉田 俊和	現代社会教育の課題と可能性：生涯学習と地域社会 / 松田武雄著. - : 新装版. - 九州大学出版会, 2009. 10	11705627	中央学 3 F 379.1 /Ma
教育発達科学研究科	元吉 忠寛	体験で学ぶ社会心理学 / 吉田俊和, 元吉忠寛編. - ナカニシヤ出版, 2010. 4	11705628	中央学 3 F 361.4 /Y
工学研究科	川泉 文男	Chemistry laboratory for secondary and higher education / Toshihiko Sonobe and Fumio Kawaizumi. - 2nd ed. - 学術図書出版社, 2010	41505945	中央学 3 F 432 /So
国際言語文化研究科	中村登志哉	ドイツ統一過程の研究 / G. -J. グレースナー著; 中村登志哉, 中村ゆかり訳. - 青木書店, 1993. 2	11706900	中央学 3 F 312.34 /G
国際言語文化研究科	中村登志哉	ドイツの安全保障政策：平和主義と武力行使 / 中村登志哉著. - 一藝社, 2006. 7	11554145	中央学 3 F 319.34 /N

(資料管理掛)

➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤ お 知 ら せ ➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤

☆ 工学部中央図書室および材料系図書室について

工学部4号館建て替えのため、工学部中央図書室は6月29日に工学部5号館6階に移転しました。また、材料系図書室の資料の移転も行いました。工学部中央図書室および材料系図書室の資料の利用については、<http://lib.engg.nagoya-u.ac.jp/news/news.html> をご確認ください。

##### 【行事等】 < 22. 3. 6 ~ 22. 6. 5 > #####

- ・ 書庫設置 (情報・言語合同図書室) <3/6>
  - ・ 韓国語図書寄贈式 李泰雨 (大韓民国総領事)、李相燮 (同領事)、崔哲豪 (同領事) <3/23>
  - ・ EU 資料展 (経済学図書室) <5/10-5/14>
  - ・ スターバックスコーヒーオープン (中央図書館) <5/17>
  - ・ 名古屋大学新規採用職員研修 参加者：森彩乃 (中)、吉岡美智子 (工) <4/13-4/23>
  - ・ 愛知県公立図書館長協議会第1回研修会 (愛知県図書館) 参加者：高野悦美 (国開) <6/4>
- 編集委員会**
- |             |           |
|-------------|-----------|
| 増田 晃一 (委員長) | 田中 暢彦 (中) |
| 安福 奈美 (中)   | 森 彩乃 (中)  |
| 久納 優希 (文)   | 山本 利幸 (法) |
| 吉岡美智子 (工)   | 浅見沙矢香 (農) |